

創立72周年
令和4年度 2月号



咲かせよう大正の花

つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1380011>



話す・伝える・考える

園長 北村 恵

暦の上ではもうすぐ立春がやってきます。とはいえまだまだ寒い日が多く、朝になると子供たちが園庭に置いている器の上に氷が張る日もあります。寒波が来るという天気予報を見て、各担任はいろいろな素材の器を用意していました。子供たちは自分なりに考えて選んだ器に水を張り、好きな場所に置いていました。予報通り冷たい北風が吹き荒れた次の朝には氷がたくさん張っていて、登園してきた4歳児の子供たちが見付けて大喜びしていました。そのうちに氷の張っているものと張っていないものがあったり、全部凍っているものと下の方が凍っていないものがあったりすることに気付き、「なんでだろう」と友達と話し合っていました。「もっとたくさん水を入れたら凍ったのかも」「こっちの広い場所に置いた方がいいんじゃない？」と、様々に考えたことをお互いに伝えていました。

3学期になって、3歳児も言葉がたくさん増えてきています。少し前までは「えんちょうせんせい」と名前を呼ぶだけで満足していた子供たちが「今ね、〇〇ちゃんとおうち作ってるの」「カボチャの馬車、先生が作ってくれたの」「三輪車でぐるぐるしたら目が回っちゃった」などと、状況を説明してくれるようになっていきます。

先日、小学校にいらした指導主事の先生が幼稚園にも寄っていかれました。ちょうど5歳児が遊園地ごっこの乗り物を作るための話し合いをしていました。15人の学級なので多くても4つぐらいの乗り物かな、と事前に担任は考えていましたが、乗り物の名前が8個も書かれているボードを前にみんなで悩んでいます。そんな中「お化け屋敷とスリラーカーを一緒にしたら？途中まで行って降りて歩いたらいいんじゃない」とアイデアを出したり「私やっぱり一人で作るの大変だからこっちの乗り物にする」と自分の考えを変えたり「二人でも絶対にこれを作る」とはっきり主張している子供たちの姿を見て、幼稚園でも話し合い活動を大切に行っていることに驚かされていました。「この姿が小学校、中学校の学級の話し合いにつながっていくのですね」と言われ、一人一人が自分の意見をきちんと言えることの大切さを私も再確認しました。

年齢によって話す言葉も理解している内容も違いますが、言葉で伝え合う喜びを幼児期にたくさん経験してほしいと考えています。一人一人違う考えをもっていること、それには理由があることを知り、平和な未来を作り出す担い手として、相手を尊重したり、理解したりしながら課題を解決する方法を少しずつ学んでいってほしいと願っています。